

冬合宿 南ア：池山吊尾根-北岳

- ◆日程 2017年12月28日(木)~12月30日(土)
- ◆メンバー L：須田(健)、日比野、岡村



〈冬合宿総括〉

今回の冬合宿は早くから北岳に決めていた。去年も計画していたが、日程とメンバーの都合で行けなかったからだ。池山吊り尾根ルートは私が23歳で入会して3か月後に初めて参加した合宿と同じルートである。当時は体力も技術もなく、バテバテで食事ものどを通らず、結局山頂直下で登頂組と待機組に分かれて登頂できず、とても悔しい思いをした。20数年後にCLとして同じルートに挑むことが出来たのは正直嬉しかった。

今回は天候にも恵まれ、北海道や北アルプスが大雪となる中、南アルプスは積雪量も少なく、合宿中も安定した天気だった。メンバーも日比野さん、岡村さんともに体力、技術、経験を備えたメンバーだったので山行に集中して楽しむことができ、無事登頂することもできた。冬合宿は今年一年の集大成であるので成功裡に終わられて良かったが、また一年を掛けて山行を重ね、新たな目標に向かって邁進して行きたいと思う。(記：須田)

12月28日(木) 天候：晴れ

朝3時半、須田さんの車で町田を出発。夜叉神に向かう。途中雪は無く5:45夜叉神に着く。かなり冷え込んでいる。車内で朝食を食べていると明るくなってきた。車も何台かやって来た。身支度をしていると、警察と地元の山岳連盟と思われる方たちから安全指導を受ける。さらに山梨日日新聞の取材を受けた。

7時前に夜叉神を出発。すぐに現れる夜叉神トンネルは入り口側がシャッター閉っていて中

が温かかった。鷲ノ住山登山口までは車道を1時間以上歩く。途中遠くの方に雪を被った山が見えていたが、この時は北岳と間の岳とは気が付いていなかった。鷲ノ住山の登りは短かかったが下りが長く、斜度も急であった。帰りの疲れた状態でこれを登り返すのかと思うと気が重い。夜叉神から入るより奈良田から入るのが正解かなと思う。

あるき沢橋から池山御池小屋までの長い登りが始まる。きつい急登である。この前登った白毛門の登りもきつかったが、こっちの方が上を行っていると思う。途中でアイゼンを着け1時間程登ると道は右に曲がり坂も緩やかになる。池山を越え暫く行くと樹林帯の中に池と思われる平らな広場が現れ、その奥に小屋が見えた。

小屋の周りにテントは1張りも無かった。小屋の中を見ると、テントが1つ張られていた。スペースに余裕があったので我々も中に張る事にする。後から来たパーティーも全員小屋の中にテントを張り全部で5張りとなった。小屋の中でのテントは実に快適である。周りのパーティーが早めに就寝を始めたので我々も早めの就寝とした。(記：日比野)

CT：町田発 3:30 - 夜叉神駐車場 5:45/6:57 - 鷲ノ住山入口 8:10/8:26 - 県道
9:50/10:13 - あるき沢橋 10:40/10:48 - 一本(アイゼン装着)11:38/11:58 - 池山 14:16/14:30 - 池山御池小屋着 14:48、消灯 19:15

12月29日(金) 天候：晴れ

午前4時半起床。テントはそのまま、6時30分頃、池山御池小屋を出発。アイゼンを履いて雪の樹林帯を進む。横方向の木々の間から朝陽が射した。ヘッテンを外す。樹林帯の登りは、倒木をまたいだりくぐったりが大変だ。こういうところ、南アルプスは原始のまま(?)手が入ってなくて、甘くない。しかし、それ以外に難しいことはなく単調だ。天気快晴。風もない。明るくなって、鳥が「チチ、チチー」と鳴いている。のどかだ。トレースもしっかり。「風雪の冬合宿」「ラッセルざんまい」という印象と随分違う。「頂上で昼寝できるような楽勝山行になりそうだ」とさえ思えた。

樹林帯の中の小ピークは城峰(よみ方不明)で、小さな看板があった。その先に幕営適地は多く、テントもあった。砂払まできたら森林限界を越える。雪は飛んで行ってしまったのか、ところどころ、岩肌が出ている。幕営はここより下がいいだろう。間ノ岳～農鳥、鳳凰三山、甲斐駒方面への展望が開けたが、北岳は見えない。これから行くボーコン沢ノ頭に隠れている。

樹林帯を抜けたので、雪のあるところではそれなりに積もっている。風が強いところは飛んでしまっていて、砂利の上を歩く。ボーコン沢ノ頭からはようやく北岳が見えた。バットレ



ポーコン沢ノ頭から見た北岳



スがまさしく「壁」という感じだ。北岳山荘は見えるが肩ノ小屋は見えず。広河原へのルートは消えて見えない。振り向くと富士山と甲府盆地が見えた。下山してきた大学生パーティの話を聞いて、「ええ？」と思った。今朝、風が強く、北岳は諦めて撤退したという。ここは無風だったので、「上はそうなのかな」とみんなで顔を見合わせる。北岳も雪煙が上がっているわけでもない。とてもそうは思えなかった。しかし、八本歯ノ頭にかかる途中、つむじ風で雪が回転して舞うことがあり(美

しかった。)、八本歯ノ頭にかかった頃には風が強くなってきた。

八本歯ノコルへの下りが本日の核心部。2か所、クライムダウンで慎重に下った。ロープなくてもどうにかなった。コルからはハンゴを登り返す。また風が強くなる。北岳山荘へのトラバース道との分岐を過ぎた。池山吊尾根と北岳・間ノ岳間の主稜線の交点(分岐)を目指す。風が体温を奪う。オーバー手袋をした。「主稜線に出るところは、風が尋常じゃない」と下山してきた人から聞いたが、そうだった。主稜線に出た途端、間断なく吹く風に耐風姿勢をとる。須田さんに「風上に顔を向けると体力を消耗する」と教わるが、向きを変える余裕なんてない。風がフードに集められ、ヤッケの下に入ってこようとする。日比野さんは「やめたほうがいいかもしれない」と言ったが、須田さんは行けると判断していた。あとで聞いたら、風が強くてここでは滑落する要素がないことを考慮したという。

風は絶え間なく吹いたが、場所によって風が強いところ弱いところがあり、最初に主稜線に出たところ以上に強いところはなかった。前述の大学生パーティは、主稜線に出たところの風が頂上部ではさらに強くなると考えて撤退を決めたのかもしれない。ピークと思って目指したところのさらに奥に北岳山頂があった。少しガスが出ていたが、雲の切れ間に眺望が得られた。もちろん風が強く、昼寝どころではない。やはり南アルプスは甘くない。

主稜線から池山吊尾根に入る手前10mの地点で、強風により私と日比野さんは耐風姿勢のまま動けなくなった。やはりここだ。いつまでも吹きやむことなし。その先10mで主稜線の下にいる須田さんは、普通に立っていて、「早くこっち、こっち」と言っている。それだけ風が局地的なのだ。ポーコン沢ノ頭からの北岳の写真を見ると、風で雪が飛ばされ、左側が岩肌を見せている。風が強いポイントは、まさに、この部分だ。



日没に間に合うかどうかという時間になっていたため、どんどん下った。ハンガロにオーバー手袋をしているにもかかわらず、手の指先が冷たく感じた。寒いと思ってヤッケの下にダウンを着た。須田さんの温度計を見て驚いた。指し示すところはマイナス15度だった。これであの風では体感温度は何度だったのだろう。しばらく歩いていると、ダウンの効果だろう、まず体がホカホカしてきて、次に指先も温かくなってきた。あとで日比野さんが、「寒いと体は



脳と内臓を守り、手足を切り捨てる」と説明してくれた。手足の先が冷たいとき、必ずしも手足の保温だけすれば良いわけではないんだな、と実感した。

あまりの強風にビビったこともあるが、寒さと風に体力を消耗していた。そもそも行動時間も長くなっていた。樹林帯に入ったあたりから、胃がムカムカする感じでバテてきた。それでも、とにかく足を前に出すしかなかった。日比野さんもちょっと調子が悪そうだ。結局、城峰を過ぎたあたりで日が暮れて暗くなり、ヘッテンを使った。

暗い樹林帯で、ところどころに木漏れ日のように月明かりが射して、雪に反射するとそこだけポーッと光の輪ができた。疲れ果てて「まだか、まだか」とばかり思っていた私には、それが灯のともったテントのようにも思え、さらに、そこから楽しげな人の声が聞こえるような気さえした。とても幻想的で美しかったが、妖しい体験だった。(記：岡村)

CT：池山御池小屋 6:30－城峰 7:20－砂払 8:40－ポーコン沢ノ頭 9:40－八本歯ノ頭 11:05－北岳山頂 13:10－八本歯ノコル 14:00－ポーコン沢ノ頭 15:30－城峰 16:30－池山御池小屋 17:35

12月30日(土) 天候：晴れ

今日は下山するだけなので5時に起床してゆっくり準備をした。小屋の中なのでパッキングも楽だ。隣のテントの人も夜叉神から入っていて、我々と前後して同じコースで行動していた。お先に！とこちらに挨拶して先に出発したと思ったらすぐに戻ってきた。テルモスを忘れたと探していたが、本人のザックにしっかり入っていた。単独だと何かと大変だ。

かくいう私も今回の山行は忘れ物が多く、バーナーヘッドを持ってき忘れた。幸い日比野さんと1つずつ持ってくるようになっていたので大事には至らなかったが、ガスが使えなかったら山行は続けられなかった。他にも山頂にアタックする日も休憩時に行動食を食べようとしてザックの中のビニール袋を開けたら、中から着替えが出てきた。呆気にとられてザックの中を探し回ったが見つからない。岡村さんからパンとチョコをもらって長い一日を行動した。俺も焼きが回ったなあー、と思ったが他のメンバーに助けられて何とか無事に合宿を終えられそうだった。

鷲ノ住山への登り返しは疲れた身体にずっしりと堪えたが、急登を終えて林道に出ると陽の当たるアスファルトの道路に3人で大の字になって寝っ転がった。まだ長い林道歩きはあるが、取り合えず上りはもう無い！それが無性に嬉しかった。

帰り道にあった芦安の寂れた温泉旅館で温泉に入った。風呂場からの景色が巨大な法面しか見えないという酷い旅館だったが、入山するとき取材を受けたのがちゃんと地元の新聞に載っているのをロビーで発見した。岡村さんが頼んだらその新聞を宿の人がくれたので、一気に好感度が上がった。今回冬の北岳を登頂出来て20数年来のリベンジが果たせた。来年の冬合宿はどこに行こうか、早くもそんなことを考えている。(記：須田)

CT：池山御池小屋 7:00 - 休 9:00 - 休 10:00 - 鷲ノ住山入口 11:30 - 夜叉神峠
登山口 13:00

【食糧】

12月28日夜【モツ煮込み風鍋】
(凍らせた真空パックのモツ，粉末みそ汁の素×4，もやし×1，野菜が一緒になった物×1，アルファ米×2，乾燥ネギ，乾燥椎茸)
12月29日朝【ミソ煮込みうどん】
(直接鍋に入れられる煮込みうどん×1．5袋、昨日の残り汁，乾燥ネギ，乾燥椎茸，海苔)
12月29日夜【ハンバーグシチュー&ライス】
(フリーズドライのシチュー×3，常温保存可能ハンバーグ×3，アルファ米×3，オニオンスープ×3)
12月30日朝【ラーメン】
(袋麺×2，乾物のラーメンの具，コーン，チャーシュー，メンマ，乾燥ネギ，乾燥椎茸，海苔)

==※以下，予備日用食糧計画（食べず）==

12月30日夜【カレー】
(フリーズドライのカレー×3，アルファ米×3)
12月31日朝【中華風粥】
(アルファ米×1，塩，中華だし，乾燥椎茸，乾燥ネギ)

以上